【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1110A

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（東京国立博物館）
1)　本館については収蔵・展示施設の改修等に関する基本計画を引き続き策定する。
2)　文化財保護法に基づく重要文化財の保存活用計画の策定について、本館を対象に検討を行う。
3)　文化財管理棟に、トーハク新時代プランに基づき、見せる修理所の開設及びバックヤードツアーの導入を行う。
4)　トーハク新時代プランに基づき、庭園を改修して、通年開放するための準備を進める。
5)　トーハク新時代プランに基づき、カフェや休憩スペースの整備を進める。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香

【実績・成果】
（4館共通）
1)施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況を踏まえつつ、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定した。(3年1月)
（東京国立博物館）
1)トーハク新時代プランに基づき変更された本館の展示室について基本計画を修正した。
2)本館保存活用計画検討委員会を開催（11月11日、1月19日）し、外部有識者の意見等を踏まえ検討を行った。
4)トーハク新時代プランに基づき庭園を通年開放するため、庭園整備工事（Ⅱ期）を実施した。(3年3月完了)
5)元年度に新設した東洋館別館のカフェは、6月の開館再開と同時に軽食の提供を開始した。
本館を中心にソファを更新し、快適な観覧環境の整備を実施した。

【補足事項】
3)見せる修理所の開設及びバックヤードツアーは新型コロナウイルスの影響により2年度は中止とし、機材等の整備を推進した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部有識者やオブザーバーである文化庁や東京都及び台東区の文化財担当者が出席した本館保存活用計画検討委員会を2回開催した。 トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備をすすめた。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（東京国立博物館）
開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備をすすめた。 中期計画期間中の元年度まで施設設備等の調査を行い、2年度はそのデータを取りまとめ分析を行い個別施設計画を策定し、中期計画を遂行できた。

【書式A】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1110B

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】

（4館共通）

1)　収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。

（京都国立博物館）

1)　本館（明治古都館）の免震耐震改修に向け、埋蔵文化財発掘調査を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】

（4館共通）

1)　収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた個別施設計画の策定を行い、スケジュールどおりに取りまとめた。今後この計画を基に次期点検・診断等に活用しつつ継続的に更新していく。

（京都国立博物館）

1)　本館（明治古都館）改修計画及び観覧環境の再整備計画に向けた、埋蔵文化財発掘調査を行った。

【補足事項】

本館北東部発掘調査状況

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルについては、スケジュールどおりに取りまとめ作業を行った。埋蔵文化財発掘調査については新たな遺構の検出などもあり、調査範囲や調査期間に変更が生じつつも調査を実施した。

【中期計画記載事項】

施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を2年度までに構築し、継続的に発展させる。

（京都国立博物館）

京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の最終年度として、施設の状態や対策履歴等の取りまとめ作業を行い、それを基にして「メンテナンスサイクル」を構築することができた。 中期計画に従い、本館（明治古都館）改修計画及び観覧環境の再整備計画に向け、埋蔵文化財発掘調査を進めつつ、文化庁や近畿地方整備局との協議を進めることができた。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1110C

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（奈良国立博物館）
1)文化財保存修理所の老朽化した空調設備の更新を行う。また、狭隘なエントランスの拡充、老朽化した東新館展示室・空調設備機器の整備、不足している展示・収蔵スペースの拡充など施設設備の検討を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
1)
・各種設備に関するメンテナンス更新計画に基づき概算要求を行った。
・展示室等空調設備の修繕計画に基づき修繕を行った。
(奈良国立博物館)
1)
・文化財保存修理所の老朽化した空調設備の全面改修を行った。
・展示施設の防犯対策として老朽化した監視カメラ設備の一部更新を行った。
・バリアフリー化の一環として、公道から建物玄関までの舗道整備を行った。
・エントランス拡張整備の検討し、概算要求を行った。
・東新館整備について検討し、概算要求を行った。
・館内の日本庭園について一般公開を目的としたWGを立ち上げ検討し、改修設計を行った。

【補足事項】
1)
・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行った。
・展示室の適正な温湿度管理のため、老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。
1)
(奈良国立博物館)
・文化財保存修理所の空調設備の改修時、中性能フィルターを追加し、改修前に比べ空気環境が良くなった。
・監視カメラ設備の健全な状態を保持するため重要度・老朽度の高い装置から優先的に更新を行った。
・エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高い事項について概算要求を行った。 監視カメラ設備装置の更新は文化財活用基金にて行った。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を33年度までに構築し、継続的に発展させる。
（奈良国立博物館）
構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期最終年度の2年度においても、老朽化施設の点検・診断を計画通り実施し中期計画を達成した。次期中期においては建物のメンテナンスサイクル更新計画の構築を行い、施設の長寿命化へ取り組む予定である。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1110D

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

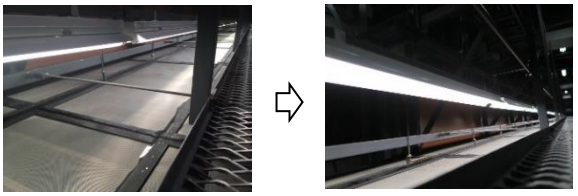
【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（九州国立博物館）
1)開館から14年が経過し、施設・設備に老朽化がみられるため、収蔵・展示施設の維持管理を目的とした改修等を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課	事業責任者	課長　原田あゆみ 課長　白井克也 課長　執行正一 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（４館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画確立のため、個別施設計画を策定した。
（九州国立博物館）
1)・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い中央監視設備（空調設備関連の監視制御）の更新や、プレート式熱交換器のプレート洗浄整備を行った。また、文化交流展示室のエアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所を塗装した。
・一部展示室内のメンテナンス照明等を、LED照明器具へ更新した。
・特別展示室の床面ワックスの全面剥離と再塗布を行った。

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)・館内全体の空調設備を監視・管理している中央監視設備について、老朽による制御部品の不具合が増加しており空調設備の停止等、運営に支障をきたす重大な不具合が発生する懸念が生じていた。
　今回の更新により、館全体に及ぶ重大な不具合の発生を防ぐとともに、安定的な監視状態が確保できるよう改善を図った。また、生産が終了している蛍光灯照明器具について、計画的にLED更新を行った。

中央監視設備モニター設備（更新前・後）


特別展示室１メンテナンス照明（更新前・後）

・特別展示室ではこれまで展覧会が終了するごとに床面をワックス掛けしてきたが、積年の塗り重ねによって各所に段差やひび割れが生じており、当該箇所がライトに照らされると展示空間の美観を大きく損ねる要因となっていた。今回のワックス全面剥離と再塗布により、床面が平滑となり観覧者によりよい展示空間を提供できることとなった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵･展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル確立のため､個別施設計画を策定し､空調設備等各設備についてメンテナンスを実施した。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（九州国立博物館）
開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、個別施設計画を策定すると共に、施設の10年整備計画等に基づき、監視カメラ・空調システム等を改修することで、中期計画を遂行した。計画に基づく予算の確保や更新について、独法と県の共同運営であるため、足並みを揃えて実施することが困難な状況である。優先順位の検討等、引き続き、計画の実施方法を検討する必要がある。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・購入件数 1件　内訳：絵画1件
・決算額　200,000,000円

2年度は、絵画1件 重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。

【補足事項】
・法然上人の伝記を描いた絵巻。もとは九巻構成の琳阿本と呼ばれる系統の作例で、本作はそのうちの第七巻にあたる。法然上人の伝記を描いた「法然上人絵伝」は京都・知恩院蔵の四十八巻本（国宝）とほぼ同時代に制作され、現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例である。本作は各系統の成立や影響関係を考察する上で重要な作品であるのみならず、本作ともとは一連であった当館所蔵の「法然上人絵伝」（A-10571）などとともに展示することで、高い展示効果が得られる。

［購入品］重要文化財　法然上人絵伝　1巻

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品件数	119,942件	－	－		117,190	117,460	119,064	119,871
うち国宝	89件	－	－		88	89	89	89
うち重要文化財	648件	－	－		636	643	644	646
収集件数	71件	－	－		199	268	1,606	807
うち購入件数	1件	－	－		11	12	31	11
うち寄贈件数	52件	－	－		44	84	72	28
うち編入件数	18件	－	－		144	172	1,503	768
文化財購入費	200,000千円	－	－		662,350	252,720	146,840	279,200

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
２年度は高い展示効果のある作品を重点的に購入することを主眼として、重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。本作は現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例であり、当館に長らく寄託されていたものである。これまでも多く活用され、高い展示効果があることから、本作を購入できたことは意義深いものである。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は高い展示効果のある作品を重点的に購入することを主眼として、重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。2年度の購入作品は1件であるが、重要文化財に指定されている本作を中期計画の最終年度に購入できたことにより、中期計画期間中において、重要文化財6件を含む計66件の文化財を購入し、中期計画を遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
・購入件数9件　内訳：絵画 1件、金工 2件、陶磁 1件、漆工 3件、染織 2件
・決算額円　41,715,600円

【補足事項】
・２年度は、「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」、「三足香炉」、「短刀　銘達磨」、「法花蓮池水禽図壺」、「夾紵棺断片」、「菊桐蒔絵耳盥」、「流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕」、「鼠麻地柳に浮舟文様染繍帷子」、「淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着」を購入した。

「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」

「短刀　銘達磨」

「流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品件数	8,150件	－	－		7,794	7,977	8,075	8,130
うち国宝	29件	－	－		28	29	29	29
うち重要文化財	200件	－	－		198	202	196	200
収集件数	20件	－	－		265	184	98	55
うち購入件数	9件	－	－		14	12	12	24
うち寄贈件数	11件	－	－		251	172	86	31
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	41,716千円	－	－		130,088	291,808	106,340	383,800

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　京都に関わりが深く、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入することができた。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度も収集方針に基づき、京都文化を中心とした美術作品を順調に購入することができた。
　また、中期計画の年度別に様々な分野の作品を購入した。
　今後も調査研究をさらに進め、展示・研究に寄与する作品を順次購入する予定である。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1121C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
購入件数10件　内訳：彫刻1件、絵画1件、書跡1件、工芸4件、考古3件
決算額：284,500,000円

【補足事項】
　2年度は以下の文化財を購入した。
彫刻：「木造仏像背板」1点。かつて国宝・薬師如来立像（元興寺所蔵・当館寄託、奈良時代）に附属していた背板。
絵画：重要美術品「東大寺戒壇院扉絵図」2幅。戒壇院の厨子（奈良時代、現存せず）の扉絵を鎌倉時代に写した白描図の傑作。高山寺伝来品で、仏教絵画史上極めて重要な作品。
書跡：「三社託宣」1幅。伊勢・八幡・春日の三神の神号と託宣を表わした、15世紀に遡る貴重な作例。
工芸：「金銅宝珠鈴」「金銅宝珠鈴」「金銅宝塔鈴」「金銅宝塔鈴」の計4件。平安・鎌倉時代の密教法具の優品。
考古：「灰釉短頸壺」「須恵器短頸壺」「伯牙弾琴鏡」の3件。現存最大の猿投壺（完形品、8～9世紀）と、同形同大の須恵器壺、そして中国・唐時代の銅鏡の貴重な出土品。

重要美術品　東大寺戒壇院扉絵図

灰釉短頸壺

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品件数	1,929件	－	－		1,886	1,893	1,908	1,911
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	－	－		112	113	113	114
収集件数	18件	－	－		3	7	15	3
うち購入件数	10件	－	－		2	6	6	3
うち寄贈件数	8件	－	－		1	1	9	0
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費（千円）	284,500円	－	－		5,040	550,000	101,564	100,440

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　奈良ゆかりの仏教美術作品や、日本美術史に重要な位置を占める作品を、各分野にわたってバランス良く、かつ数多く収集することができた。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度も、仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料、歴史資料等を、バランス良く多数収集することができ、中期を通して計画を達成した。平素より重要な文化財の所在や実態の把握を行ってきた当館の活動が、この成果を生んだと思量される。今後も引き続き、情報収集につとめ、展示・研究に有用な作品の収集に努めて行きたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1121D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（九州国立博物館）
　日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
・購入件数　49件。
　内訳：絵画4件、書跡2件、刀剣2件、陶磁3件、漆工2件、染織5件、考古27件、民族資料1件、歴史資料3件
・決算額　584,156,250円
　当館の展示テーマである、日本とアジア、ヨーロッパ諸国との文化交流を示す作品を中心に収集した。重要文化財「古文書手鑑」や「花鳥堆朱盤」、「豊臣秀吉領知宛行状」などの優れた文化財を49件購入した。

【補足事項】
・絵画分野では4件購入した。琉球の画家・山口宗季による「花鳥図」、「椿白鷹図」は、戦火による焼失の多い琉球絵画の貴重な作品であるとともに、画壇を代表する絵師による優品である。河村若芝による「布袋図」は、長崎に花開いた長崎唐絵の代表的な画家、若芝の新出の作例として貴重である。いずれも東アジア絵画史における文化交流の観点からも重要な作品である。
・書跡分野では2件購入した。重要文化財「古文書手鑑」は、江戸時代・18世紀前半頃に長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全78葉を収める手鑑である。また、宗像社領小呂嶋をめぐって宋商人・謝国明の名が登場する関東御教書や、蒙古襲来に際して石見の御家人に防戦のため下向を命じた関東御教書などは貴重で、対外交流や九州との関係の深さから当館にふさわしい作品である。
・陶磁分野では3件購入した。重要文化財「法花蓮鷺文有蓋壺」は、著名な数寄者によって所蔵され、高い評価を受けてきたもので、堂々とした風格と華やかさを備えた法花の名品である。
・漆工分野では2件購入した。「花鳥堆朱盤」は、宋時代以来好まれた吉祥性あふれる意匠である牡丹花と双鳥様式の尾長鳥をあらわす。室町時代に愛好された唐物漆器の中でも定番の作例であり、作行・状態ともに大変優れ、展示効果も高い。

重要文化財
法花蓮鷺文有蓋壺

・考古分野では27件購入した。青森県出土の土偶2件は、様式の変遷がたどれるもので、一つは、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された亀ヶ岡文化のものである。いずれもユニークな造形で、展示でも大いに活用が期待される。
・歴史資料では3件購入した。「豊臣秀吉領知宛行状」は対馬藩主、宗義調・宗義智宛に発給された秀吉の領知宛行状である。これは、豊臣秀吉の九州平定後、対馬の宗氏を従え、朝鮮出兵へと進み始める段階の一次史料として重要なものである。
・いずれも日本と大陸の文化交流を物語る作例であり、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品件数	1,412件	－	－		583	878	1,164	1,279
うち国宝	4件	－	－		3	3	4	4
うち重要文化財	44件	－	－		37	39	41	42
収集件数	133件	－	－		58	295	286	115
うち購入件数	49件	－	－		36	34	105	49
うち寄贈件数	84件	－	－		22	261	181	66
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	584,156千円	－	－		640,412	640,636	907,943	461,396

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度も元年度と同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館が収蔵するにふさわしく、文化交流を端的に示す「古文書手鑑」などのほか、「花鳥図」や「花鳥堆朱盤」など、時代の美意識を示す作品もバランスよく収集した。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）
　日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、日本とアジア、ヨーロッパ諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料を多数購入、寄贈を受けることにより、貴重な作品をバランス良く収集し、中期計画を遂行した。
　次期中期である3年度以降も、購入、受贈につとめ、より一層のコレクションの充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（４館共通）
寄贈
・新規寄贈品件数　52件
　　内訳：絵画 2件、書跡 29件、陶磁 1件、東洋書跡 15件、東洋彫刻 1件、東洋染織 1件、東洋考古 3件
寄託
・新規寄託品件数　69件
　　内訳：絵画 4件、書跡 29件、彫刻 5件、漆工 1件、歴史資料 1件、東洋書跡 27件、東洋陶磁 2件
・寄託品は新規に69件を受け入れた。返却9件のうち、2件は寄贈品として受理した。

【補足事項】
寄贈
・作品の寄贈については8人の所蔵者から、52件の文化財を受け入れた。
・「粟穂鶉図屏風」は土佐光起の作として、のちの土佐派が継承することとなった鶉図の貴重な大画面作例である。また、当館は土佐派による景物図の大作は所蔵していなく、本図が加わることで展示活用の幅が広がることが期待される。
・重要美術品の「和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）」は藤原伊行筆である。平安時代末に『和漢朗詠集』が金銀箔の散らされた料紙に書写されていることは大変貴重であり、巻下はその父・藤原定信筆として当館所蔵であるため、書跡分野においてより高い展示効果が期待される。
寄託
・作品の寄託については5機関3個人から、69件を新規に受け入れた。
・寄託品のうち国宝は、書跡1件、東洋書跡1件。重要文化財は、絵画1件、書跡8件、彫刻2件、東洋書跡8件である。

［寄贈品］粟穂鶉図屏風 8曲1双

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	52件	－	－		44	84	72	28
寄託品件数	2,651件	－	－		3,075	3,109	3,130	2,591
うち新規寄託品件数	69件	－	－		37	71	45	29

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度は書跡・東洋書跡分野を中心として重要美術品を含む展示に大いに活用できる寄贈を一括で受け入れた。また、寄託についても国宝2件、重要文化財19件を含む69件を受け入れることができた。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　本中期計画期間は寄贈品件数について、第 3 期中期計画期間には及ばなかったものの、中期計画期間を通じて安定的に寄贈を受け入れることができ、第 2 期中期計画を上回る寄贈品件数であったため、中期計画の目標は達せられた。
　寄託については第 3 期中期計画期間中に一括で受け入れた公益財団法人大倉文化財団寄託品は、寄託当初の計画どおり返却したため、寄託品件数は減少したものの、中期計画期間を通じて安定的に寄託の増進を図ることができ、特に 2 年度には公益財団法人常盤山文庫から、新たに書跡・東洋書跡分野を中心に、国宝・重要文化財を含む多くの寄託を受け入れることができた。以上のことから当初の目標を上回る成果を得られたと判断した。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（4館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
・寄贈
　新規寄贈品件数11件
　内訳：絵画　6件、染織　4件、歴史資料　1件
・寄託
　新規寄託品件数43件
　内訳：絵画　21件、書跡　1件、金工　7件、陶磁　3件、漆工　6件、染織　1件、考古　4件

【補足事項】
　2年度は、下記の3点をはじめとした新規寄託品を網羅的に収集することができた。

（重要文化財）柿・栗図

（重要文化財）芦雁図襖 雲谷等顔筆

（重要文化財）鉄燈籠 貞永二年銘

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	11件	－	－		251	172	86	31
寄託品件数	6,547件	－	－		6,189	6,235	6,434	6,520
うち新規寄託品件数	43件	－	－		227	79	232	149

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　寄贈については、絵画と染織作品を受け入れることができた。
　また、寄託については、重要文化財4件を含む多くの貴重な作品を受け入れることができた。
　各分野の研究員が寄託者との信頼関係の構築に尽力しており、更なる寄託品の受け入れに貢献している。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画に沿って、当館がテーマとする京都の文化を基軸にした寄贈品・寄託品の受け入れを分野毎に行うことができた。受贈、受託した作品に関しては、今後の展示への活用を計画している。
　また、寄贈者に対して、税制措置のサポートを行う等の当館独自の取り組みも行っており、寄贈者の満足度向上に努めることができている。以上のように寄贈・受託品の積極的な受け入れ推進・活用ができているため、中期計画を達成したと言える。
　今後も寄贈者・寄託者との信頼関係を大切にし、より一層のコレクションの充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1122C

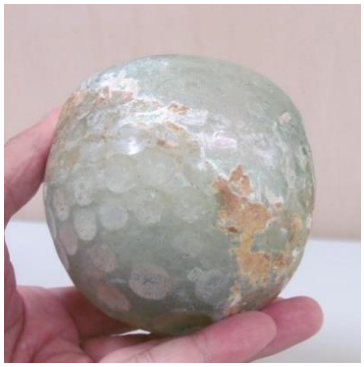
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（4館共通）
寄贈を受け入れたのは以下の8件である。
・彫刻　1件：「木造蔵王権現立像」 1軀（個人）
・工芸　1件：「紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月 作」 各5枚（個人）
・考古　6件：「六十六部経筒片」 1点（個人）、「六十六部納札片」 1点（個人）、
「礫石経（伝神倉山経塚出土）附 軸端」 1括（個人）、
「泥塔・泥塔経」 6点（個人）、「切子碗」 1口（個人）「長沙窯鳥文水注」 1口（個人）
寄託を受け入れたのは以下の26件である。
・彫刻　10件：「銅造観音菩薩立像」1軀（法徳寺）、「木造如来坐像」1軀（法徳寺）、「木造地蔵菩薩立像」1軀（法徳寺）、「木造文殊菩薩坐像」1軀（法徳寺）、「木造持国天立像・増長天立像」2軀（法徳寺）、「銅造大威徳明王騎牛像」1軀（妙法院）、国宝「木造天蓋（所在金堂）附属飛天像 横笛」1軀（法隆寺）、小野市指定文化財「木造阿弥陀如来立像」 1軀（浄土寺）、「木造阿弥陀三尊像」 3軀（個人）、重要文化財「木造金剛力士立像　康成作（所在二王門）」2軀（金峯山寺）
・絵画　4件：「三天合体像」1幅（談山神社）、「中将姫像」 1幅（青蓮寺）、「春日鹿曼荼羅」1幅（個人）、「和州矢田山地蔵菩薩毎月日記」1幅（金剛山寺）
・工芸　7件：「毘沙門天王三尊懸仏」 1面（朝護孫子寺）、「金銅山王本地仏懸仏」1面（宗教法人悟心会）、「銅布薩水瓶」1口（現光寺）、「銅布薩水瓶」1口（慈眼寺）、「銅五鈷杵」1口（慈眼寺）、「粉地彩絵八角几　模造」1口（個人）、「金銅火焔宝珠形舎利容器」1基（個人）
・書跡　5件：「注大般涅槃経　巻第十三」1巻（個人）、「法華経　巻第五（残巻）」1巻、「称讃浄土仏摂受経」 1巻（青蓮寺）、「称讃浄土仏摂受経」 1巻（青蓮寺）、「称讃浄土仏摂受経」 1巻（青蓮寺）

【補足事項】
・彫刻部門で寄贈品として受け入れた「木造蔵王権現立像」は平安時代らしい造形感覚にあふれた作品で、館蔵品に蔵王権現像が少ないことと併せ、展示効果は高いと見込まれる。寄託品として受け入れた「木造阿弥陀如来立像」は快慶作の可能性がある佳品、「木造阿弥陀三尊像」は多武峯妙楽寺伝来とされ、製作年や製作者が判明する重要な品で、いずれも展示・研究両面での活用が期待される。
・絵画部門で寄託品として受け入れた「中将姫像」は、近世以前に描かれた中将姫単独画像の数少ない作例の一つで、宮廷周辺の人物が関わって青蓮寺のために描いた由緒の明らかなものとして大変貴重。当館絵画部門の柱の一つである南都の信仰に関わる絵画の一角を成すものと位置付け得る。
・工芸部門で寄贈品として受け入れた「紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月 作」は正倉院宝物の模造品で、奈良時代の撥鏤技法の調査成果を反映した意義深い作品である。寄託品として受け入れた「毘沙門天王三尊懸仏」は製作年・製作者等の墨書銘を有する大型の作例で、近年注目を集める宿院仏師の基準作と考えられる重要な品。
・書跡部門で寄託品として受け入れた「法華経巻第五（残巻）」は、写経年代の明らかな唐代の写経として非常に価値が高い。「称讃浄土仏摂受経」のうち２巻は奈良時代の「中将姫願経」として知られるもので、展示の充実に資する上、学術的な調査によるデータの蓄積も期待される。１巻は鎌倉時代の写経で、中世における中将姫信仰の事例を示す重要な品である。
・考古部門で寄贈品として受け入れた経塚の出土品3件（「六十六部経筒片」「六十六部納札片」「礫石経（伝神倉山経塚出土）附 軸端」）は中世から近世にかけての納経に関わる信仰の様相を示す。古代から中世にかけての塔供養の一端を示す「泥塔・泥塔経」と併せて、考古部門の収蔵品の充実を図ることができる。「切子碗」は西アジア製で正倉院宝物の白瑠璃碗に時期的に先行するとみられる稀少な品。「長沙窯鳥文水注」は晩唐代の釉下彩絵で、古代日本において数多く招来された貿易陶磁と比較し得る重要な作例。いずれも研究や展示において多様な活用が可能である。



寄贈　切子碗（3～4世紀）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
新規寄贈品件数	8件	－	－	経年	1	1	9	0
寄託品件数	1,988件	－	－	変化	1,958	1,962	1,974	1,974
うち新規寄託品件数	26件	－	－		37	12	18	8

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　寄贈品、寄託品あわせて 34 件と、積極的に受け入れを行った。市指定文化財や由緒が明確な品など、質の高い作品の受け入れを進めることができている。今後、これらを活用した調査研究、展示企画が大いに期待される。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画最終年度である2年度においては、当館の柱である仏教美術から当館にゆかりの深い正倉院宝物に関連するものまで、多様な作品の受け入れを行った。また、時代的にも奈良時代から現代までと幅広く、多角的な視点で作品を受け入れることができた。中期計画期間全体を通しても、このようなバランスのとれた作品の受け入れができたため、研究・展示活動の幅が広がり、積極的な活用へとつながるものと評価できる。以上のことから、中期計画を充分に達成できたと判断した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1122D

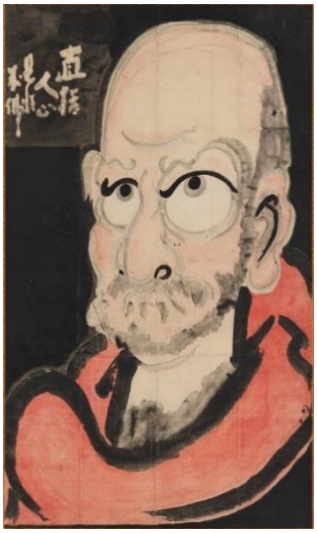
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
■寄贈
・84件の新規寄贈があった。
　内訳：書跡30件、彫刻17件、金工1件、刀剣9件、陶磁1件、染織1件、考古25件
　　書跡は、重要美術品を含む30件の一括寄贈である。平安時代を中心とする古筆の名品が揃っており、館蔵品の手薄な分野を補うことができる。
　刀剣9件のうちには豊後や肥前、薩摩など九州の刀工による作品が含まれ、九州ゆかりの刀剣類が充実することとなった。このほか鎌倉時代から明治時代までの刀、短刀、脇差、槍など多彩な刀剣を収蔵することができた。
　考古25件のうち1件は、制作地が中国から東南アジア、ヨーロッパ、さらにアフリカまでの広範囲に及ぶビーズ126件である。時代も幅広く、古今東西の交易と交流の歴史を示すことができる作品群である。

■寄託
・50件の新規寄託があった。
　内訳：絵画2件、刀剣3件、考古45件
　　絵画2件のうち1件は、大分の臨済宗の古刹萬壽寺より、江戸時代の僧白隠慧鶴による「達磨図」を受け入れた。展覧会にも出品され、白隠の最高傑作として知られる。縦2メートルもの大画面を持ち、展示効果が高い。
　刀剣は3件を受託した。九州における南朝派のお抱え刀工だった延寿派を代表する刀工国時による太刀（重要美術品）1件を含み、当館での展示活用が大いに見込まれる。
　考古45件のうち43件は、株式会社西日本シティ銀行が所蔵するコレクションの一部で、イスラム陶器を多く含んでおり、館蔵品の不足を補うものとして重要である。



（寄託）達磨図　白隠慧鶴筆
宗教法人萬壽寺蔵

【補足事項】
2年度に受贈した作品については、その一部を3年度内に寄贈者顕彰室及び新収蔵品展において公開する予定である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	84件	－	－		22	261	181	66
寄託品件数	1,309件	－	－		893	934	931	1,300
うち新規寄託品件数	50件	－	－		44	45	7	432

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受け入れを、分野のバランスよく行うことができた。いずれも質量ともに充実しており、当館のコレクション及び展示・研究の核となるものである。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受け入れを、他分野にわたり行い、中期計画を遂行した。
　中期計画最終年度に当たる2年度においても、受け入れにあたっては、できるだけ迅速に事前調査を行い、当館への寄託、寄贈につなげるべく交渉を行った。その結果、刀剣や考古（ビーズ）では、当館がテーマとする文化交流と九州ゆかりの作品が加わり、大いに活用が期待される。元年度に引き続き、多数の寄贈・寄託を受け入れたことで、コレクション及び展示・研究がさらに充実した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
（東京国立博物館）
ア　収蔵品・寄託品及び一時預品の情報管理を継続して行う。
イ　古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、収蔵庫運用ルールを定めたうえで運用を開始した。また、新規収蔵庫の空調及び扉の初期不良と、本館収蔵庫の収納棚、資料館収蔵庫並びに法隆寺宝物館の扉の劣化に伴い、改善、補修を行った。
イ　2年度は1,167件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。
（東京国立博物館）
ア　未整理・未登録の法隆寺献納宝物等2件につき、列品としての編入につながる調査を行った。
「雷文唐金爵」（H-1265）1件につき、台帳上の員数修正につながる調査を行った。
九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、10件の収蔵品について情報調査を行った。
浮世絵画帖に貼り込まれた浮世絵36点と、松方浮世絵コレクションのうち820点の作品情報を更新し、文化財情報システムに登録した。
イ　古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、16件の写真資料を列品として編入した。

所在確認作業の様子

［編入］写真資料　明治時代　19世紀　1枚

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	133.8%	－	－		180%	180%	133.8%	133.8%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵庫の設備の充実のための作業、寄託品・収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげている。写真資料は16件を列品として編入した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵品の増加に対応するための新収蔵庫を建設し、収蔵スペースの拡充をした。 また、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善をし、寄託品・収蔵品・未登録品の確認・整理を行った。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（東京国立博物館）
ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実及び業務の効率化を図る。
エ　「収蔵品データ管理システム」の構築及び収蔵品データの整備を進め、列品にかかる統計業務の効率化と情報の利活用向上を進める。
オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。
カ　ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。
キ　文化財管理棟への収蔵品・寄託品等の移動プランの策定など、移動に向けた準備を行う。また、文化財管理棟内の環境が文化財の保管に適切であることを確認した上で、本館で保管している収蔵品・寄託品等の移動に着手する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦 課長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（東京国立博物館）
ウ　protoDBで更新されたデータを「ColBase」に自動的に反映する機能を継続して運用した。また多言語データ入力のためインターフェースを改善した。
エ　「収蔵品データ管理システム」による効率化と情報の利活用向上を進めた。
オ　収蔵する和古書・洋古書について20,106件のデジタル撮影を行った。
カ　デジタル化済みのガラス原板についてデータの確認を行った。
キ　2年度の収蔵品・寄託品等の移動にかかる入札を実施し、予定分の移動と移動後の所在確認作業を終えた。また、3年度に移動予定の収蔵品・寄託品等について、事前の整理作業を行った。

【補足事項】
ア 未整理、未登録の考古資料約250箱分について、整理及びクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	20,106件	24,471件	C		25,334	26,972	25,575	26,475
和古書・漢籍	16,628件	－	－		20,224	19,002	25,575	20,916
洋古書	3,478件	－	－		5,110	7,970	0	5,559

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、職員が在宅勤務を余儀なくされたため、資料等のデジタル化件数は目標値を下回ったが、この状況下の中でも本館で保管している収蔵品・寄託品等の管理棟への移動作業については、順調に進めることができたためＢ評価とした。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
画像データを継続的に蓄積するとともに、文字データの整備を推進し、業務や調査研究に役立てた。和古書・漢籍・洋古書のデジタル化も、前中期目標の期間の実績以上とすることができ、中期計画を遂行することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

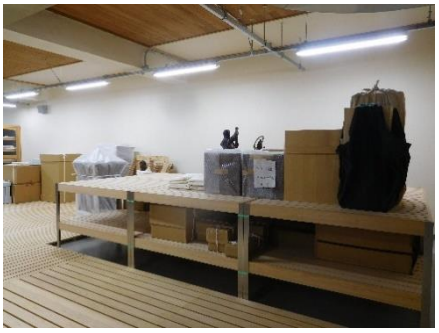
【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　２年度は、北収蔵庫において立体物の収納効率を上げるため、大きな平棚を設置し、収蔵品を再整理して配置した。
イ　毎年度 2 回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。

【補足事項】
北収蔵庫に利便性に優れた大きな収蔵用の平棚を設置し、収蔵品を再整理の上配置した。

整理前


平棚設置整理後

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	100%	－	－		100%	100%	100%	100%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は、収蔵庫の収納整理の効率化のため大きな平棚を設置し、収蔵品を再整理の上配置した。 また、寄託品の所在確認作業も予定通り2回実施することができた。さらに、連絡が取れない寄託者の所在確認に努めた。今後も、継続的に寄託者との連携を強化し、寄託者が安心して寄託できるよう尽力していく。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度も環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。 収蔵状況を把握した上で新たに棚を設置するなど適切な保護処置を行い、中期計画を遂行できたと言える。 また、寄託継続証の発送作業を通じて、寄託者の異動（寄託名義人の転居・死亡・相続等）を把握し、その都度、適切な事務手続きを行うことができた。寄託者の所在不明等の課題を解決するため、寄託者との良好な連携体制の整備に努めた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等のカラーフィルム等のデジタル化を実施する。
イ　列品管理における業務効率化のため、文化財情報システムにおける管理機能の改善を進める。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を6,319件（カット）行った。
エ　収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(2年度登録件数：24,847件)
・フィルム等の劣化による再撮影や、購入、寄贈に伴い新規に撮影をおこない、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し、展示・調査研究の業務に役立てた。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,633件実施した。以下、内訳を記す。
・館内のフィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、2年度は5,623枚のデジタル化を行った。
・元年度に劣化したマイクロフィルムからデュープを作成し、2年度に10リール（5,783コマ）のデジタル化を行った。
イ　3年度の文化財情報システム改修に向けて、現システムの問題点を洗い出し、仕様書の策定を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ　当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展「御即位記念　特別展　皇室の名宝」(10月10日～11月23日)、特別展「凝然国師没後700年 特別展　鑑真和上と戒律のあゆみ」(3年3月27日～5月16日)を対象として進めた。また、4年開催予定の特別展「最澄と天台宗のすべて」における出品作品の撮影も進めている。
・「文化財保存修理所開所40周年記念　特別企画　文化財修理の最先端」(12月19日～3年1月31日）など特集展示・特別企画のため、作品の撮影を行った。
・須磨コレクション等を含めた収蔵品の撮影を継続して行った。
・龍光院を調査し、作品の撮影を行った。(処理番号1411B7参照)

ギヤマン切子三重杯(京都国立博物館蔵)

（京都国立博物館）
ア　外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。
・原板フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。
・劣化したマイクロフィルムから作成したデュープを使用し、2年度にデジタル化を行い、マイクロフィルムのデジタル化はすべて終了した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	5,633件	3,816件	A	経年変化	5,820	4,444	3,380	5,333

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度に比べ、スキャニングの外注を増やし、既存フィルムのデジタル化を積極的におこなった。既存フィルムのデジタル化を進めることにより、文化財情報システムの収蔵品データ数を増やすことができた。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウィルスの影響により、デジタル化の初動が遅れたが、外部への発注計画を見直し、中期計画期間を通じて、目標値を超えることができた。デジタル化が進んだことにより、外部公開用の館蔵品データベースの公開件数を増やすことができた。よって、中期計画を達成したと判断した。今後も積極的にデジタル化を進めていく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1131C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
ア
・収蔵庫等空調設備の修繕計画に基づき修繕を行った。
・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月 1 回（計 12 回）開催した。
イ
　寄託継続証の定期的な発行に際し、部門ごとに寄託品の収蔵状況の確認を行った。さらに、証書の発送・通知に際し、寄託者の異動（宗教法人の代表役員の交代や名義人の転居や死亡に伴う変更など）を把握した。また寄託が長期間に及ぶ所蔵者にかつて発行した旧式の証書を、現行の証書に書き換える作業を進めた。

【補足事項】
ア 学芸部の書跡・絵画・彫刻・工芸・保存修理の各部門と施設担当部署で構成するワーキンググループを開催し、展示室、収蔵庫等施設の維持管理、充実、改善に向けた検討を行った。

収蔵庫の温湿度測定作業風景

老朽化による空調機更新

空調機目詰まり修繕作業風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	99%	－	－		99%	99%	99%	99%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 毎月1回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫、展示室の修繕計画に基づき空調機器の修繕を行うことで収蔵品の保存環境を維持し、適切な温湿度管理が図られた。 中期計画に沿って、寄託品の所在確認及び寄託者の異動状況の把握を着実に進め、適正な寄託品管理が維持できたため、目標を達成した。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1131C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
イ　画像データベースの個別データを追加更新する。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について引き続き検討する。
エ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等の新規デジタル撮影画像を蓄積するとともに、基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き実施した。　新規撮影：1,835件
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを追加更新した。　追加更新データ：3,534件
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を継続し、運用方法についても検討した。
エ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。　デジタル化：3,017件

【補足事項】
・4～10月に写真技師が空席となり新規のデジタル写真撮影が一時止まったが、11月の新技師着任以降は順調に実施し、データを蓄積できている。
・文化財情報システムに関して、いくつかの修正を実施した。その内容は、①出品預証書の出力フォーマットの更新、②奈良国立博物館データベースのポータル画面を最新内容に更新、③画像利用タブの新設、等々である。
・上記③は、新設タブ自体は機能しているものの、使い勝手の悪さなど課題が多く、業者との間で課題管理表をやり取りし、日々改良に努めている。
・収蔵品等の写真について、元当館職員の矢沢邑一氏が撮影した大量のフィルム（カラー・モノクロとも）の寄贈を受けた。

矢沢氏寄贈写真原板の一部

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	3,017件	5,373件	C		3,081	3,017	3,047	3,001

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新規撮影画像データの蓄積は、上記のとおり写真技師不在の期間があったため、件数は例年より少なめである。一方で、既存フィルムのデジタル化、情報システムへの登録については、職員の在宅勤務期間に作業が一部滞ったものの、例年並みに近い数値になり順調に成果を上げている。目標値の設定数に到達はしていないため評定はＣとしているが、上記の特殊な要因を除けば、例年並みの数値であり、年度計画に沿って順調に推移していると判断し総合評価はＢとした。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
収蔵品等の画像データ、テキストデータ等については、colbaseの充実とも連動する形で、日々、データの蓄積を実施できている。定量的指標として、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数を掲げているが、これは前中期目標期間から継続の指標であり、すでにカラーフィルムのデジタル化は29年度で終了し、公開用データベースにも上がっている。基本的なデジタル化については、中期目標を達成したと言える。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1131D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
・施設設備に関しては収蔵庫内の扉の点検を行い、開閉時に電気鍵にエラーが出る傾向の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。
・収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの位置調整及び機器の更新を実施した。
・収蔵庫内の保管スペースを確保するため、文化財保管用の棚を増設した。
イ
・当館は所蔵品以外にも長期借用（約1,500件）、寄託品（約1,200件）など数多く管理している。元年度からの3年間計画となる収蔵品の実査（棚卸し）を継続し、全工程の6割以上を完了した。
・収蔵品実査の一環として、合計14,741点からなる対馬宗家文書の目録情報及び画像データとの対応関係を精査し、11,119点までの確認を完了した。
・寄託品を含む15,013件の収蔵品等の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。
・実査を行った収蔵品の状態・付属品等を記録・撮影し、文化財情報システム上での共有を進めた。
・収蔵庫内のスペースを有効に活用するため、一部文化財の保管場所を変更し、新たに収蔵された文化財の保管スペースを確保した。

【補足事項】

収蔵庫内の新規棚の設置

収蔵品（所蔵品、寄託品、長期借用品）実査

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	90%	－	－		80%	85%	80%	80%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、必要に応じた整備や修理、調整を行った。 寄託品の所在確認を行ったほか、収蔵品の棚卸しを継続して行うなど、計画性をもって作業を進めている。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通し、収蔵品等の管理を徹底し、収蔵に必要な設備の整備を行ったことで中期計画を達成した。 2年度においては、3年度に新たに長期借用・購入・出品等の候補となる作品の受入について、関係者にて保管場所と保管方法の確認、検討を行った。また、保管スペースの確保にも努めた。 計画に基づく収蔵品等の管理のために、収蔵庫内の棚卸しを実施し、資料登録情報を更新するとともに、保管方法の現状確認と適切な保管方法についても検討した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1131D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　　2/2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（九州国立博物館）
ア　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　専任撮影技師による3,525件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
エ　文化財情報システムの運用を継続し、616件の収蔵品データを新規登録した。
（九州国立博物館）
ア　列品・寄託品・借用品などの有形文化財情報と、陳列・画像・修復などの情報を一元管理するシステムを継続的に運用し、また、同システムの改修・整備を進めた。
　2年度は、会議支援システムの運用を開始し、文化財の受入時に開催される会議に関する情報を集約・管理した。また、既存の収蔵品データベースと連携させることで、会議資料の作成やデータベースへの登録に係る作業負担を大幅に軽減した。

鑑査会議支援システムの画面

【補足事項】
（４館共通）

収蔵品・出品作品等の撮影の様子

（九州国立博物館）
ア　業務上必要な情報へのアクセシビリティの向上を目指し、既存のシステムに対しても細かな調整を実施した。このことにより、収集した文化財情報の活用を推進し、より強固な情報基盤を構築することができた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	（完了）	―件	－	経年変化	－	－	－	（完了）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は「九州国立博物館文化財情報システム」の鑑査会議を管理する機能を追加したことにより、事務作業の効率化が可能となり、文化財情報の一元管理がさらに進んだ。新規撮影画像の画像データ処理、データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、収蔵品に関する情報を一元管理し、展示や貸与、修理、調査研究に活用していくためのシステムを計画通り整備した。また、既存の収蔵品データベースと連携させることで資料作成などの作業効率を向上させた。さらに、外部に文化財情報を発信し、博物館活動の活性化に供したことから中期計画を達成したと考える。 2年度は、元年度に引き続き新規撮影を進め、ポジフィルムで撮影した作品についても、改めて高精細カメラにて再撮影する作業も継続した。例年通り2,000カット以上の撮影を行った。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1132A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行う。
イ　収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。
ウ　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。
エ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。
オ　輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫等50か所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した収蔵庫2か所、修理室5か所に対して除塵防黴清掃を実施した。
イ　収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを706件作成した。

緩衝材(生綿)の衝撃試験の様子

（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の温湿度環境情報を収集し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。
イ　収蔵庫及び展示室約300か所の温湿度を計測し、5か所の収蔵庫、修理室に対して各7種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。
ウ　シミュレーション技術を用いて、剛体とみなした展示物の地震動に対する応答挙動を観測する手法について検証した。
エ　収蔵庫及び展示室約300か所の温湿度、5か所の空気汚染物質に関する年次報告を整備した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関連し、特別展会場の換気と収容人数の最適化について検証した。
オ　文化財輸送に用いられる緩衝材について、衝撃試験によって衝撃吸収特性を計測し、適切な使用法について検証した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、文化財梱包に用いられる緩衝材の特性に関する調査を実施した。特に、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について展示室の換気と環境維持の両立を図る必要があり、これまで蓄積してきた館内環境の調査を有効に活用することができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 元年度に今後の課題とした、より高度な地震対策の実現について2年度にその検証手法をほぼ構築することができた。文化財輸送環境の保全についても、輸送機関上の加速度計測値から緩衝材の評価に至るまで一貫した研究を継続し検証手法を確立できた。温湿度計測および生物生息調査の結果から館内各所の環境的評価に基づく対策を講じることができた。以上の観点から、中期計画を遂行できたと評価する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1132B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の展示環境及び収蔵施設、東収蔵庫、北収蔵庫の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行う。
イ　明治古都館の改修計画に役立てるため、環境データの収集・解析などを行う。
ウ　資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫（KICK）も含めた、包括的な保管管理体制の構築を目指す。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを191件作成した。
（京都国立博物館）
ア　元年度に改修を終え、本格的な使用が開始された東収蔵庫は、新館モニタリングシステムとの一体的な運用をはじめ、さらに2年度は換気のための外気導入と展示室内環境への影響に関するモニタリングデータの収集を行った。一方専用LAN経由での環境モニタリングが実施できない施設について、即時的に温湿度が分かる環境モニタリングシステム構築に向けて、2年度は新手法の予備試験を実施した。平成知新館の展示室及び収蔵庫、東収蔵庫、北収蔵庫の定期的な歩行性昆虫類の生息調査、東収蔵庫の空気質調査を実施した。

本館 IPM 作業

イ　明治古都館の収蔵庫エリアは、通年で温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を実施し、データの蓄積を行った。IPMとして徹底した清掃等の作業を実施した。
ウ　各施設の温湿度データを通年で収集し、それらを協議会や現地施設管理者との打合せ時に周知することにより、温湿度に関する意識向上と連携強化を図ることができた。外部収蔵庫（KICK）では現地管理者との打合せを通じて環境維持を連携して実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
主に貸与に伴う点検時に行う収蔵品の保存カルテ作成を継続し、2年度は191件作成した。
平成知新館展示室・収蔵庫、東収蔵庫の一体的な温湿度環境モニタリング調査を運用し、空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析結果とともに、エリア別の環境管理対策を実施することができた。2年度は換気のための外気導入を重点的に実施し、展示室内環境への影響に関するデータ収集・対策などへ新たに対応した。明治古都館では、イベント会場としての活用後には徹底したIPMを実施し、保存と活用のバランスを図ることができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に沿って、各収蔵・展示施設は、空調システムが各々異なる等、複数の条件のもと、継続的なモニタリングの実施とデータの蓄積ができた。これらのモニタリングデータは、適切な展示・保管環境保持のための各施設の対策に役立てることができた。特に今中期計画では複数施設の包括的な管理体制を目指しており、最終年度までに、専用LAN経由によるモニタリング体制を新館・東収蔵庫で、無線によるモニタリング体制を本館・北収蔵庫・管理棟・文化財修理所で構築できたため、系統的なデータ解析が可能となった。今後の課題は専用LAN経由のモニタリングが実施できない施設において、即時的に温湿度表示可能なシステム構築を進め、データ収集の迅速化を図ることである。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1132C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵・展示施設及び展示ケースの適正な温湿度管理の徹底を図り、無線 LAN によるデータ管理システムを更に充実させる。
イ　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管および展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約2か月に1度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することによりIPMを推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示･収蔵環境の衛生保持に努めた。
イ　保存修理指導室で作製した文化財の写真添付が可能な作製フォームを用いて60件の保存カルテを作成・保管した。

昆虫調査用トラップの設置様子

（奈良国立博物館）
ア　無線LANによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し､正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。
イ　展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月10日に実施した。また展示ケースの定期点検並びに劣化していた気密部分の交換・修理を行い、気密性の向上を図った。
ウ　展示室の無線LAN温湿度管理システムによる24時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　館内の展示室･収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などIPMの実践につなげた。
（奈良国立博物館）
ア　機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 元年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。必要に応じて展示ケースのシール部分の交換や修理等を進め、展示環境の向上を図った。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画を達成できた。次期中期においても展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1132D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（九州国立博物館）
ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。
イ　全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　IPMの考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理を実施した。
イ　収蔵品の保存カルテ83件を作成した。
（九州国立博物館）
ア　展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積した。また、粘着トラップを館内全域に設置し、毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握した。さらに、トラップの捕獲データ等を参考として発生源、侵入経路を推測し、館内各エリアの徹底清掃、並びに館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行ったことにより、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。
イ　文化財の展示・保存空間における揮発性有機化合物濃度を測定し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。

【補足事項】
ア
・展示・収蔵空間等に設置したデータロガーを使用して温湿度の連続モニタリングを行い、作品の材質に合わせた温湿度環境を維持した。また、温湿度センサの校正を適宜実施し、測定値の正確度を確保した。
・文化財害虫の侵入及び発生を防ぐため、館内全域において、粘着トラップの定期的な観察・交換による捕獲虫モニタリングと、各エリアにつき年2回程度の徹底清掃により、害虫の発生要因を除去した。
・文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材の生物処理を実施した。低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の化学薬剤を使用しない手法を採用した。
イ
・より良い展示環境を作り出すための方策として、展示ケースの効率的な換気方法の検討や、展示台の新規作製時に活用するための、揮発性物質が放散しにくい材料の選定などを行った。

修復施設における徹底清掃の様子

展示ケースの換気方法と空気質の関係の調査風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
殺虫殺黴処置	18件	－	－		58	35	26	19
保存カルテ作成件数	83件	－	－		81	102	101	96

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市民ボランティアとのトラップ交換等の活動を実施できなかった。しかし、館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータは連続的・継続的に蓄積できた。さらに、取得したデータに基づいて環境の改善に取り組むことができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	今中期期間を通して、収蔵品・展示品等の保存環境に関わるデータ収集を継続し、適切な保存環境の保持に努めたことで中期計画を遂行できた。 中期計画最終年度である2年度も同様の取り組みによって、文化財の材質に合わせて温湿度環境を維持し、適切な有害生物管理によって害虫の発生や被害を未然に防ぐことができた。さらに、空気質環境をより向上させるために有効と考えられるいくつかの方策が明らかになった。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-1A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組み完了を目指す。
イ　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。
ウ　保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
(東京国立博物館)
ア　保存修復課に、染織文化財に関する修理技術者1名を配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために238件の応急修理を実施した。
イ　修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む250件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めて、44件の本格修理を実施した。
ウ　データベース構築のために、元年度に修理が完了した13件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書21』を刊行した。

【補足事項】
・国宝「医心方」(平安～江戸時代) 独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を実施・完了した。
・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12世紀)は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期36か月）。
・重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・縔絲、元～明時代・14世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期24か月）。
・重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄附金により修理を実施した（2年1月着工、工期24か月）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	44件	－	－		68	69	26	24
修理のデータベース化件数	13件	－	－		61	47	98	19

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
緊急性の高い本格修理及び応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝2件、重要文化財2件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30年度からの継続事業に修理費をあてたこと、移動を伴う修理監督機会の抑制などの一時的な新型コロナウイルス感染拡大防止策によるためで、中期修理計画は予定通りに運用している。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に従い、事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。引き続き常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・安全に展示を行うため、文化財の応急修理を５件行い、劣化の予防に努めた。
・「重要文化財　遠浦帰帆図　伝牧谿筆」をはじめとする絵画７件、金工１件、考古４件の本格修理を行った。
・特に点数が多く、大型であることから予算の確保が難しく懸案となっていた「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の修理に着手することができた。
イ　中長期修理計画を策定し、計画に基づき収蔵品の修理を予定通り実施することができた。
ウ
・2年度は137件の新規修理文化財搬入があり、データベース化を行うとともに、過去のデータに関して1,272回追加、更新を行った。
・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、2年度は123件の修理記録のPDF化を行った。
・電子情報の増大に伴い、文化財保存修理所サーバーの新設を行い、情報保全に対応することとした。

【補足事項】
ア　以下は、文化財保存活用基金により修理を実施する。
・「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」、「重要文化財　琴棋書画図　山水図　伝宗継筆」、「四季花鳥図」の旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵は2年度から4か年計画。
・「重要文化財　山水図　拙宗筆」は2年度から2か年計画。
・「西宮古墳出土　鉄剣残欠、金銅製飾金具残片」は2年度の単年度計画。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	12件	-	-		14	11	17	12
修理のデータベース化件数	137件	-	-		151	180	149	171

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵はその数の多さから費用的な問題があったが、大型寄附金を活用し、修理に着手できたことは大きな成果であり、この修理により、今後の中世水墨画分野での研究に資することが大いに期待される。
修理資料のデータベース化については、サーバーの新設で、過去分を含め電子情報の保全に一定の方向性が打ち出すことができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度に、懸案となっていた襖絵の本格修理や修理関係電子情報の保存について、サーバーの新設ができたことは特筆できる成果である。
中期計画期間を通じ、貴重な文化財の保存・修理とそれらの修理記録を保存する基本設備の充実を推進し、中期計画を超える成果を達成できた。
なお、電子化し、蓄積が増えてきた修理関係記録の活用方法については、今後検討していきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1133-1C

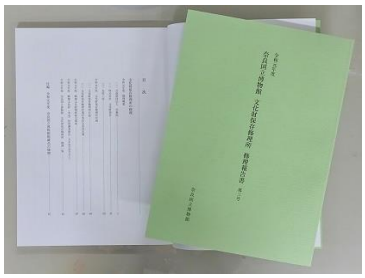
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に「絹本著色聖徳太子絵伝」等の修理に取り組む。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。
エ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア
・館蔵品本格修理7件のうち、新規5件、元年度からの継続事業2件を実施した。
　内訳　絵画3件、彫刻1件、工芸2件、考古1件
・年度内に5件が完了した。
イ　22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。
ウ　『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第2号を4月に、第3号を3年3月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。
エ　寄託所蔵者と協議を行い、寄託品4件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に設置した。
ウ　30年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第2号を刊行した。彫刻の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。
　また、第3号はファイバースコープによる調査写真を掲載することで修理に伴う科学調査の実施例を示した。
エ　寄託品修理として、新規に談山神社所蔵　三天合体像を着工した。募金により法徳寺の木造文殊菩薩坐像を着工した。また、文化財保存活用基金により、館蔵品の重要文化財　絹本着色十二天像を4か年継続で着工した。財団助成では住友財団の助成により京都・眞輪院所蔵　重要文化財　絹本著色両界曼荼羅を2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理を完了した。出光文化福祉財団の助成では、京都・大覚寺所蔵 重要文化財　絹本著色五大虚空蔵像が元年度から2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理を完了した。新たに着工した念仏院所蔵　奈良県指定　刺繍善導大師像は2年度末に修理を完了した。聖護院所蔵　絹本着色熊野宮曼荼羅は2年度から2か年継続で修理を行っており、3年度末に修理完了の予定。



『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第３号

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	7件	―	―		7	6	6	8
修理のデータベース化件数	70件	―	―		62	69	63	74

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　元年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　助成金や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。以上より、中期計画を十分に遂行できたと言える。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　文化財の劣化の予防に努めるために、必要となる応急修理を適正に実施し、また緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
・館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財23件（本格20件、応急3件）の修理を実施した。
・新収品を中心に、桐箱や中性紙箱等の保存箱を作成した。
・当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品、九州所在の地方公共団体・社寺等所蔵品の保存状態調査を行い、効率的な調査の実施と現実的な修理計画の策定、適切な処置へとつなげることができた。

【補足事項】
・館費による修理件数23件(本格20件、応急3件）の内訳：
絵画1件(本格1件)、書跡2件(本格2件)、漆工1件(本格1件)、刀剣1件(応急1件)、染織2件(本格2件)、考古9件(本格8件、応急1件)、歴史資料7件(本格6件、応急1件)
・重要文化財「対馬宗家関係資料のうち、箱20巻1～9」(当館所蔵)の表紙は、絵具の多くが剥落しており、朱部分は水銀朱によるヤケのため裂の欠落が著しく、取り扱いが困難な上、美観を損ねていた。当館文化財保存修復施設で修理が実施されたことにより、修理の進行状況の頻繁な確認と協議を行い、適切な修理を実施できた。修理は3か年計画（4年度まで）で継続中である。「対馬宗家関係資料」は平成17年度から修理が始まり、成巻文書については16年目に当たる2年度で約20%が完了した。今後も同様のペースで修理が進めば、全巻の終了までにはおよそ80年かかる見込みである。

重要文化財「対馬宗家関係資料のうち箱 20 巻 1～9」

・掛軸は、巻き解きすることが保存上良くないと考えられた時期があり、マット装やパネル装で伝わる作品も知られている。22年に当館所蔵となった重要文化財「病草紙断簡」1幅(当館所蔵)は、掛幅装であったが、購入以前に表具裂部分のみが上下から巻かれ、本紙部分は平らな状態のまま桐箱の中に平置き保存されていた。この状態では、出し入れが大変難しく、取り扱いが危険であった。当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て本紙の状態を調査したところ、本紙には問題が無かったが、今後の保存や取り扱い時のリスクを最小限とするため、桐製太巻添軸を新調して、太く巻き桐箱に納めることとした。
・当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て、天草ロザリオ館（熊本）所蔵品の保存状態を調査した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	20件	－	－		18	19	40	31
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む20件の本格修理を計画的に実施できた。また、修復施設使用者の協力を得て、保存状態調査を効率的、的確に実施し、3年度の本格修理の計画を策定することができた。 修理後は当館で展示活用を図ることで、修理の成果を一般に公開することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	今中期全体を通し、機構内外の研究員や修復技術者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。また、調査研究設備については、更新、保守、改良を行い、精度の高い分析値が得られるようになったことも含め、中期計画は達成できたと考える。 次期中期においても、緊急性が高い作品から本格修理を実施し、継続的に修理を行うとともに、修理を終えた作品は展示に活用し、広く公開していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
・月次風俗図屏風（A-11090）の修理中における透過赤外線撮影調査を行い、重なっている線描を調査した。また、同作品と類似する作品である新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」の反射赤外線撮影調査も行い、先に撮影した透過赤外線画像、元年度に撮影した反射赤外線画像、X線画像と比較し、修理の方向付けに寄与した。
・九条袈裟紫地唐草文様印金/草花文様綉絲（TI-421）の修理中に蛍光X線分析と三次元蛍光分光分析、デジタル顕微鏡調査を行い染料の同定と使用材料の調査を行った。
・第二十三天聖尊者図軸（TA-40）の修理中に蛍光X線分析と可視光蛍光分光撮影を行い、剥落止めの方針決定に寄与した。
・扇面散図（A-12347）の修理中に蛍光X線分析と可視光蛍光分光撮影を行い、剥落止めの方針決定に寄与した。
・雛雀図（TA-355）の修理中に印章の可視光蛍光分光撮影を行い印章文字の解読を進めた。
・雲龍螺鈿机（TH-388）のX線CT調査を修理前に行い構造を確認して修理方針の決定に寄与した。
・小袖白綾地秋草模様（I-721）の修理前に蛍光X線分析を行い、顔料と染料の区別をして修理の方向性に寄与した。
・龍樹思惟台座表面（TC-64）のクリーニング方針の決定のため、処置前に可視光、赤外線、紫外線下によるデジタル顕微鏡観察及び蛍光X線分析を実施し、塗装や付着物の調査を行った。
　津波被災した陸前高田市立博物館所蔵資料の修理事業では、サンゴサカズキの膳は、修理前にCT撮影及び蛍光X線分析を行い、内部構造の把握と使用材料の調査をした。また金銅装双塔文笈は、修理中に確認した木部の欠片を使用し樹種同定を行い使用材料の調査をした。

【補足事項】

図1.小袖白綾地秋草模様の修理前蛍光X線分析

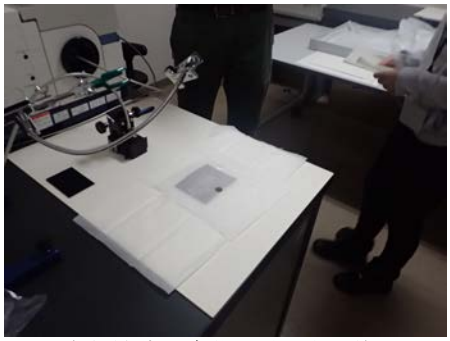


図2. 九条袈裟紫地唐草文様印金の修理中三次元蛍光分光分析

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　肉眼では判別がつかない作品の特徴を様々な光源を用いた特殊撮影を行うことで作品の本質を捉え、修理前、修理中における方針の決定や修理中にしか行えない作品研究に寄与することができた。また平面作品にはX線撮影、立体作品にはX線CT撮影を行う等、作品と目的に合わせた構造や材質の調査を行い修理方針の決定に寄与した。

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　活動時間が限られた2年度においても保存修復課と作品担当者との連携ができたため、今中期全体を通して、適した工程の時期に調査を行うことが出来たことは評価できる。しかし、各種分析装置の生産・補償期間が繰り上げられるなどの連絡がメーカーから寄せられるなど、予定外の機器更新を行ったことが課題として残った。次期中期においては、メーカーや業界の情報収集精度をあげて予算計画を策定する。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　X 線 CT スキャナ、蛍光 X 線分析や分光分析、X 線透過撮影など各種光学的調査を駆使して研究の進展を図りつつ、文化財の状態を正確に把握して修理や保存、活用の指針の策定に資する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
収蔵品、寄託品だけでなく外部から依頼のあった作品のX線CT撮影、蛍光X線分析、赤外線撮影、三次元蛍光分光分析などを行い作品調査研究、修理前、修理中調査などを行った。また、元年度にX線CT撮影を行った画像を用いて京都大学と文殊菩薩像（C-23）の構造に関する調査を行った。
X 線 CT（館内）：観音菩薩立像（九面観音）（C-221）、埴輪 鞆（J-20285）、遮光機土偶（J-36873）、封泥 7 個、など 14 件。
X 線 CT（借用品を含む館外）：法隆寺百済観音像、東京芸大牡丹大食籠、関市春日神社　能面、陸前高田市博物館所蔵算額など 44 件。
赤外線撮影：十輪院校倉内壁、月次風俗図屏風（A-11090）、浄土寺扇面貼混屏風、新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」、灰陶奩（TJ2979）。
X 線撮影：封泥 590 個、浄土寺扇面貼混屏風（6 曲 1 双）、供養目録（E-14575）、立命館大学所蔵「かるた遊び図」、国立西洋美術館所蔵フランシスコ・デ・スルバラン作「聖ドミニク像」、ルドヴィール・カラッチ作「ダリウスの家族」。
蛍光X線分析：普賢菩薩像(A-1)、第二十三天聖尊者図軸（TA-40）、扇面散図（A-12347）、浄土寺扇面貼混屏風（6 曲 1 双）、九条袈裟紫地唐草文様印金/草花文様繻絲（TI-421）、常陸大宮市所蔵土器、立命館大学所蔵「かるた遊び図」、陸前高田市博物館所蔵ガラス乾板、新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」など。

【補足事項】

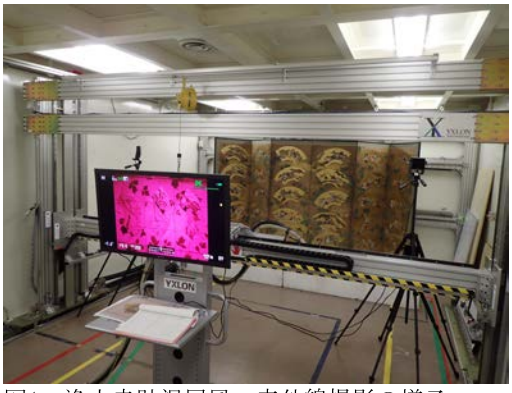


図1. 浄土寺貼混屏風　赤外線撮影の様子

図2. TI-421 九条袈裟紫地唐草文様印金　蛍光Ｘ線分析の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は収蔵品に対して、借用品または館外からの依頼の調査分析が多くなった。しかし、前年度測定データを活用した研究を京都大学と行うなど、蓄積してきたデータの活用が出来たのは評価でき、新型コロナウイルスの影響で活動が限られる中、計画を遂行できたといえる。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	活動時間が限られた2年度においても所期の目的は達せられ、今中期全体を通しても同様に所期の目的は達せられた。しかし、各種分析装置の生産・補償期間が繰り上げられるなどの連絡がメーカーから寄せられるなど、予定外の機器更新を行ったことが課題として残った。次期中期においてはメーカーや業界の情報収集精度をあげて予算計画を策定する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-2B

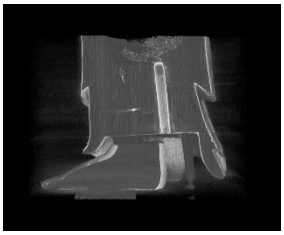
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種化学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（京都国立博物館）
ア　仏像等のX線CT撮影を行い、適切な修理指針の検討に役立てる。
イ　蛍光X線分析や分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、彩色材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意なものとし、修理への活用を模索する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存科学室長　降幡順子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（4館共通）
ア　2年度の所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房と実施した科学分析調査は、作品の内部構造調査として、I.Pを用いたX線透過撮影7回、FPDを用いたX線透過撮影1件、X線CT撮像4件を実施した。作品の材質調査としては蛍光X線分析調査17件、分光分析調査3件、デジタル写真測量2件である。
（京都国立博物館）
ア　X線CT撮影の一例として、西教寺蔵阿弥陀如来像の構造調査では、表面からは正確な位置の把握が難しかったほぞ穴とその内部で折れている旧ほぞの構造を明らかにすることができ、修理時の作業の有用な情報を提供できた。また解体修理時に重要となる、釘や鎹の位置関係を3次元画像にすることで、金具の取外す手順の参考にすることができるなど、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することができた。
イ　非破壊的な分析調査では、各工房の調査依頼を受入れ、処理前の形状記録のためのSfM計測の実施や、継続的に絵画資料の染料・顔料材料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を行うことができた。

【補足事項】



XCT画像

材料調査

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
作品の状態調査や文化財修理所各工房からの調査依頼を受入れ、継続的な科学分析調査を実施した。修理前調査は、修理方針の策定に有用となる文化財資料の情報を修理技術者と共有することができた。また2年度は絹本の裏彩色と表彩色についての詳細な調査を実施することができるなど、中期計画にある彩色材料調査等の分析事例の集積とともに文化財の技術の解明にも有効なデータを得ることができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
修理前あるいは修理中に実施される科学分析調査は、中期計画当初は蛍光X線分析とX線CT調査にとどまっていたが、今中期計画期間で、そのほかに分光分析やデジタル写真測量、ポリライト観察、FT-IR分析など、分析手法の多様化と調査件数の増加を図ることができ、文化財の物性に応じた分析調査と修理指針へ貢献できた。
修理を必要とする有形文化財の非破壊科学調査を実施するための、高い安全性や精度を有する測定装置の導入不足や、修理技術者とのデータ・知識に関するさらなる共有が必要である点は今後の課題として挙げられるが、中期計画を通して科学的な技術を取り入れた修理件数は上昇し、中期計画を達成したと判断した。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（奈良国立博物館）
ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　X線CT撮影、X線透過撮影等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、今年度は目視で樹種を判別できたため、樹種同定調査を行わなかった。（実施計0件）
イ　・館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。
・絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。（実施計8回）

X 線 CT 撮影の様子

【補足事項】
（４館共通）
イ　当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 京都大学と連携して行っている彫刻作品の樹種同定調査は、2年度は目視で樹種を判別できたため、実施しなかった。その他では、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえ計画的な修理を実施した。2年度は絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てており、中期計画を順調に遂行したといえる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-2D

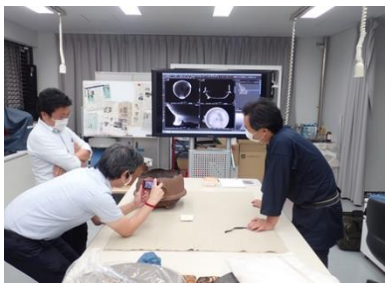
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（九州国立博物館）
ア　修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてX線CTスキャナ、X線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　元年度に引き続き、重要文化財「対馬宗家関係資料」（当館所蔵）等の紙本文化財の繊維同定を行い、文化財ごとに適切な補修紙を作成した。
（九州国立博物館）
ア
・「霰地真形釜欠風炉」（当館所蔵）等の過去の修理情報を得るため、 X 線 CT スキャンによる構造調査等を行い、修理設計に役立てた。
・修理中の「花鳥螺鈿箪笥」（当館所蔵）、「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓」（沖縄・浦添市美術館所蔵）及び「練革黒漆塗白糸威五枚胴具足」（久留米市教育委員会所蔵）等の X 線 CT スキャンを実施し、修理の実施に役立てた。
・「東妙寺并妙法寺境内絵図」（佐賀・東妙寺所蔵）について、実体顕微鏡観察及び蛍光 X 線分析による顔料調査を行った。
・「島津氏関係文書」（当館所蔵）について、蛍光 X 線分析による顔料調査を行った。

【補足事項】
・修復施設1～4では、修理工房宰匠が館費修理品11件のほか、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類（那覇市歴史博物館）など、合計34件の修理を実施した。
・修復施設5では、芸匠が館費修理品8件のほか、重要文化財「金銀錯珠龍文鉄鏡」（東京国立博物館所蔵）など、合計14件の修理を実施した。
・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが館費修理品1件のほか、国宝「初音の蒔絵調度　書棚（棚囲い・七宝繋）」（徳川美術館所蔵）など、合計4件の修理を実施した。
・当館所蔵品の館外修理は、松鶴堂が「装飾布　幾何形結び文様更紗（ウンヤ手）」など2件、小宮光敏が「短刀」1件、合計3件を実施した。


「霰地真形釜欠風炉」（当館所蔵）の修理協議の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
修理前及び修理中に、伝統的な紙や絵の具の材質調査、製作技法などの構造調査等を行い、入念に修理方針を検討することができた。伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、当館所蔵品については、修復施設使用者と連携しながら作品の状態調査を行い、当館以外の九州所在文化財については、修復施設使用者、所蔵者、管内教育委員会等と連携し、適切な修理を行ったことから、中期計画を達成したといえる。
中期計画最終年度である2年度においても、修理着手前・修理中にはX線CTによる構造調査、修理中には紙繊維の同定・顔料の分析等の科学調査を行い、伝統技術に科学技術を取り入れた修理を計画的に実施できた。
新しい科学技術を取り入れる等により、次期中期にあたる3年度以降も文化財の状態調査を行い修理指針の策定に役立てるだけでなく、文化財の材料・技術の解明に資したい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1134B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

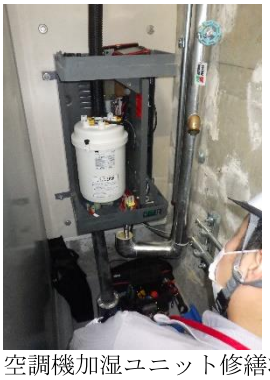
【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年７回）し、意見交換を行った。
（京都国立博物館）
ア
・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。
・各所老朽化した設備（空調機加湿ユニット、熱源整備、外壁劣化部他）の修繕を行った。
・豪雨時の地下階への雨水の侵入を防ぐ防水板の設置について検討を行った。
・新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所での防災訓練を中止した。

【補足事項】

（京都国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催とした。


空調機加湿ユニット修繕状況

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催という形になったが予定通り開催し、委員から意見を運営の参考とした。修理者協議会は感染症対策を実施の上、予定通り開催した。 老朽設備の改善を適時適切に行うことができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 開所から 40 年を経過し、設備面での老朽化は目立つものの、防災訓練や減災に向けた手段を講じ、様々な方法で補うように工房と協力しながら文化財保存修理所の整備を進めており、指定品を中心とした修理を実施する施設としての役割を中期計画期間通じて果たすことができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1134C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の空調機器の更新を実施した。ブラインドについては点検を計画中である。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所運営委員会は例年５月に実施していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面審議とした。また、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などについて、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の３工房代表者と当館学芸部で討議する文化財保存修理所協議会を２回開催した（9月24日、3年3月12日）。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を４回実施した。

【補足事項】
・12月22日から3年1月17日まで、当館西新館第1室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。元年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した11件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開などの機会に配布した。
・3年1月8日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、例年より参加者を半数程度に絞り実施したが、報道機関を含む70名の参加があった。

２年度　文化財保存修理所特別公開

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	運営委員会については書面審議を行い、所内3工房代表者とは協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用や文化財被災時に修理技術者と連携できるように意見交換を行った。その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画を達成できた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1134D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を運営し、文化財の保存修理に積極的に活用する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・文化財保存修復施設1～3の書跡や歴史資料の修理に使用する定規について、生じていた経年の歪みを修理した。文化財保存修復施設3・4には電子天秤とデジタルマイクロスコープを導入した。
（九州国立博物館）
ア
・当館文化財保存修復施設にて当館経費による修理20件及び所有者負担による修理32件、合計52件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による3件の修理事業を実施した。
・保存修復諸室を活用し、当館所蔵品及び寄託・借用品等6件の構造調査等を行い、その結果を保存管理に役立てた。

【補足事項】
・文化財保存修復施設2の修理用定規については、経年の利用による歪みのメンテナンスを行う時期に達していた。書跡や歴史資料の修理案件が増加しており、全てを同時に修理することが出来ないため、22点（5種類各2組・三角定規2点）を2度に分割して、専門技術者による修理を施工した。
・文化財保存修復施設3・4には、電子天秤やデジタルマイクロスコープを導入することにより、紙文化財の修理技術や修理記録をより精度の高いものにすることができた。
・文化財保存修復施設で修理した文化財52件中49点の9割以上が九州・山口地区所在文化財となっており、九州・山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積している。
・文化財の修理は、在宅勤務が不可能であるが、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、年度当初に修理品の搬入を見合わせる所蔵者が多くみられた。継続事業などの修理を優先的に進め、時差出勤、夜間も含めた交代勤務など、新型コロナウイルス対策の指針を順守し、無理の無い範囲で効率的・計画的に修理を実施し、予定していた修理事業を年度内に無事完了することができた。

文化財保存修復施設の活用風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
修理事業や分析調査事業については、当館所蔵品だけでなく、九州所在の教育委員会・社寺等所蔵品に対しても実施しており、九州・山口地区の文化財修理・調査の拠点として活動できた。当館の文化財保存修復施設は、九州・山口地区における文化財修理の拠点として活用され、確実に成果を上げている。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通し、文化財保存修復施設の整備を適切に行うことで、中期計画を遂行した。しかしながら、開館より15年以上がたち、経年劣化や修理件数の増加により、修理やメンテナンスが必要な設備が増えてきている。3年度以降も、当該設備のメンテナンスを継続的に行い、文化財を適切に修理・分析できるよう設備を整備していきたい。今後も計画的に修理事業を進め、修復施設の活用を継続したい。